

平成29年度 杉森高等学校 自己評価表

達成目標	具体的方策	評価	課題
1 最重点目標			
元気な挨拶を交わせるようになる	教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行を実践する。教師は率先して生徒に挨拶する。	○	挨拶や身だしなみは自発的によくできる生徒が増えた。基礎学力の定着は重ねて努力する必要がある。
節度ある身だしなみができるようになる	学科・学年に関係なく現場での服装指導を全職員で実践する。 服装頭髪指導に関する規定を検討する。 教師が率先垂範して適切な服装に心掛ける。	△ △ △	
全員が基礎学力を身につける	授業時間数の確保に努める 土曜日や7限目（放課後学習）を活用した基礎学習の取り組みを行う。	○ △	
2 杉森らしい校風の醸成			
明るく元気な学校を創る	体育祭や文化祭などの学校行事を充実させ帰属意識向上を図る。	○	杉森高校の一因であるという帰属意識は高まってきている。文化祭は全校で盛り上がった。
地域に貢献し、地域に愛される学校を創る	おもてなし委員会をとおして地域貢献活動を行う。 ボランティア活動を奨励し顕著な活動を行った個人やグループは表彰する。	○ △	
伝統を大切に生徒が誇れる学校を創る	始業式・終業式において校歌斉唱を実施する。 開校記念式等において本校の歴史を学ぶ。	○ ○	
3 学力の向上			
丁寧な学習指導により学力が向上する	分かりやすく効率的な授業を目指す。 アクティブラーニング等、生徒が自主的能動的に活動する授業を目指す。 課外授業の充実を図る。	○ △ △	各学科や各教科では適切な指導が進められている。さらにきめ細かな連携と協力が必要である。
授業規律を守ることができる	授業開始時に服装を正させ机上を整理させる。 開始のチャイム前に席に着くように指導しチャイムからチャイムまでメリハリをつけた授業を行う。 提出物の期限を守らせる指導を教科担当教師と担任等が協力して行う。	○ △ ○	
達成感を感じ自信を着ける	授業規律の指導に当たって学科・学年で協力し組織的に行う。 合格点に確実に到達させる授業と考査問題を工夫する。 意欲を喚起する形成的評価の工夫を行う。	○ ○ △	
4 生活規律の確立			
基本的な生活習慣を身につける	生徒が無届けの遅刻・欠席をした場合は担任が保護者に連絡し協力して指導し、年間の遅刻回数・欠席日数を減少させる。 言葉遣いや立ち居振る舞い等適切な言動行動を心掛けさせる。	○ △	学校全体で規律を守ろうとする機運の醸成をさらに進める必要がある。
規範意識を身につける	交通ルールを遵守する指導を行い意識を高める。 学校内外で校則や法規を遵守することの意味を考えさせ意識を高める。	○ ○	
5 その他の教育活動の活性化			
人権意識を身につけ人権を大切にできる行動ができる	全ての教育活動の中で、お互いの人権を大切にする指導を行う。 教師が生徒を一人の人格として尊重した対応をする。	○ ○	生徒に自信を持たせ自尊感情を高めることができる。さらに求められる。クラブ活動の活性化は引き続き課題である。
確固たる進路目標と修学の意欲を持てるようになる	体系的な進路学習を行い具体的な進路目標を設定できるように指導する。 個別の相談や指導の強化により年間の退学・転学者数を減少させる。	○ △	
クラブ活動が活性化する	クラブ活動の活性化を図る。（加入率70%を目指す。） 対外試合の予告や結果報告等に掲示板を活用する。	△ △	
生徒会活動が活性化する	生徒会行事の企画・運営を生徒が主体的に行うことができるように指導する。	○	
6 各学科の活性化			
(食物科)	食の大切さを理解し、食文化の担い手としての自己の役割を自覚させる。 調理師免許を全員取得させる。	○ ○	各学科とも生徒と教師の信頼関係が築かれている。多くの学科行事があり充実しているが教員の負担軽減が課題である。
(看護科・看護専攻科)	感性豊かな看護の心を育て、医療の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 看護師国家試験において受験者全員合格させる。	○ △	
(福祉科)	感性豊かな福祉の心を育て、福祉の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 介護福祉士国家試験において受験者全員合格させる。	○ △	
(普通科)	ファッションや医療技術への関心を高め進学・就職に対する強い意欲を持たせる。 豊かな感性を育むとともに、進学・就職に対応できるよう学力を高める。	○ △	
7 広報活動の活性化			
中学校や地域への発信を確実にする	学校通信「杉翠（さんすい）」の発行やホームページをとおして教育活動を発信する。 中学校との信頼関係を構築することができるように中学校訪問時の持参資料や提供情報を工夫する。 普通科2コースの情報発信を徹底する。	○ ○ ○	広報委員は精力的に活動している。中学校との強固な信頼関係構築が課題である。

※具体的方策の実施に当たっては、教師や生徒の自己評価において好評価が概ね80%以上となることを目標とする。

平成30年度 杉森高等学校 自己評価表（計画段階）

達成目標	具体的方策	評価	課題
1 最重点目標			
明るく和やかな校風を醸成する	教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行を実践する。教師は率先して挨拶を励行する。教師、生徒が学校の発展を目指し、一丸となって教育活動、学校生活を充実させる。		
節度ある身だしなみができるようになる	学年・学科が両輪となり、生徒指導部が統括することで指導方針・方法を統一する。服装頭髪指導に関する規定を徹底させる。教師が率先垂範して適切な服装に心掛ける。		
生徒の基礎学力が身につくよう指導・支援をおこなう	授業時間数の確保に努める。（土曜、7限目の活用を含む。） 習熟度別、少人数授業、ティームティーチングなどを効果的に活用する。		
2 杉森らしい校風の醸成			
明るく元気な学校を創る	体育祭や文化祭などの学校行事を充実させ帰属意識向上を図る。様々な学校行事、学科行事等を通して、生徒の出番を作り、自信を持たせる。		
地域に貢献し、地域に愛される学校を創る	おもてなし委員会をおとして地域貢献活動を行う。 ボランティア活動を奨励し顕著な活動を行った個人やグループは表彰する。		
伝統を大切に生徒が誇れる学校を創る	本校専門科・コースの特色を生かした地域貢献を行う。 始業式・終業式において校歌斉唱を実施する。 開校記念式等において本校の歴史を学ぶ。		
3 学力の向上			
丁寧な学習指導により学力が向上する	分かりやすく効率的な授業を目指す。 アクティブラーニング等、生徒が自主的能動的に活動する授業を目指す。 課外授業の充実を図る。		
授業規律を守ることができる	授業開始時に服装を正させ机上を整理させる。 開始のチャイム前に席に着くように指導しチャイムからチャイムまでメリハリをつけた授業を行う。 提出物の期限を守らせる指導を教科担当教師と担任等が協力して行う。		
達成感を感じ自信を着ける	授業規律の指導に当たって学科・学年で協力し組織的に行う。 合格点に確実に到達させる授業と考査問題を工夫する。 意欲を喚起する形成的評価の工夫を行う。		
4 生活規律の確立			
基本的な生活習慣を身につける	挨拶の励行、服装・頭髪・容儀を整えさせ、有意義な学校生活を送らせる。 言葉遣いや立ち居振る舞い等適切な言動行動を心掛けさせる。		
規範意識を身につける	学校内外においても校則や規定を遵守する意識を高める。 交通ルールを遵守する指導を行い意識を高める。		

平成30年度 杉森高等学校 自己評価表（計画段階）

達成目標	具体的方策	評価	課題
5 その他の教育活動の活性化			
人権意識を身につけ人権を大切にできる行動ができる	全ての教育活動の中で、お互いの人権を大切にする指導を行う。 教師が生徒を一人の人格として尊重した対応をする。		
確固たる進路目標と修学の意欲を持てるようになる	体系的な進路学習を行い具体的な進路目標を設定できるように指導する。 個別の相談や指導の強化により年間の退学・転学者数を減少させる。		
クラブ活動が活性化する	クラブ活動の活性化を図る。（加入率70%を目指す。） 対外試合の予告や結果報告に校内放送や掲示板を活用する。		
生徒会活動が活性化する	生徒会行事の企画・運営を生徒が主体的に行うことができるように指導する。		
6 各学科の活性化			
（食物科）	食の大切さを理解させ、食文化の担い手としての自己の役割を自覚させる。 調理師免許を全員取得させる。		
（看護科・看護専攻科）	感性豊かな看護の心を育て、医療の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 看護師国家試験において受験者全員合格させる。		
（福祉科）	感性豊かな福祉の心を育て、福祉の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 介護福祉士国家試験において受験者全員合格させる。		
（普通科）	ファッションや医療技術への関心を高め進学・就職に対する強い意欲を持たせる。 豊かな感性を育むとともに、進学・就職に対応できるよう学力を高める。		
7 広報活動の活性化			
中学校や地域への発信を確実に 行う	中学校向け発行物やホームページをとおして教育活動を発信する。 中学校との信頼関係を構築することができるように中学校訪問時の持参資料や提供情報を工夫する。 地域の小学校とも連携を図り、広く本校を知ってもらう。		

※具体的方策の実施に当たっては、教師や生徒の自己評価において好評価が概ね80%以上となることを目標とする。